

# 令和4年度「伊勢市高校生議会」記録



伊勢市議会

## ■日時

令和4年8月10日（水）午後1時30分～午後4時5分

## ■出席者

### （高校生）

1. 英心高等学校  
1番 中林慶獅議員、2番 作田湧紗久議員、3番 作田夕妃乃議員
2. 皇學館高等学校  
4番 鯖戸朝陽議員、5番 河井滯音議員、6番 稲熊和彦議員
3. 伊勢工業高等学校  
7番 市原久志議員、8番 野島結羽議員
4. 伊勢学園高等学校  
9番 渡辺舞乙議員、10番 森本伊織議員、11番 山本雄大議員、
5. 伊勢まなび高等学校  
12番 丹川凜議員、13番 谷口萌那議員、14番 西山龍青議員
6. 宇治山田商業高等学校  
15番 加藤沙織議員、16番 荒木優那議員、17番 上谷茉央議員
7. 宇治山田高等学校  
18番 池田真梧議員（19番 河邊希里斗議員は欠席）
8. 伊勢高等学校  
20番 西崎吏玖議員、21番 尹嘉寛議員

### （伊勢市議会議員）

世古明議長、北村勝副議長

上村和生産業建設委員会委員長及び広報広聴検討分科会会長、井村貴志産業建設委員会副委員長及び広報広聴検討分科会委員、吉岡勝裕教育民生委員会委員長、宮崎誠教育民生委員会副委員長、品川幸久総務政策委員会委員長及び広報広聴検討分科会委員、福井輝夫総務政策委員会副委員長

藤原清史広報広聴検討分科会副会長、野口佳子広報広聴検討分科会委員、野崎隆太広報広聴検討分科会委員、久保真広報広聴検討分科会委員

宿典泰議員、浜口和久議員、西山則夫議員、辻孝記議員、岡田善行議員、吉井詩子議員、鈴木豊司議員、楠木宏彦議員、中村功議員、大西要一議員、川口浩議員（三野泰嗣議員は欠席）

### （伊勢市長）

鈴木健一市長

■記録

開 会



◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長

ただいまから、伊勢市高校生議会を開催いたします。

私は、伊勢市高校生議会を企画・立案いたしました議会のあり方調査特別委員会広報広聴検討分科会の副会長を務めております、藤原清史と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

始めに、主催者を代表しまして世古明議長より御挨拶を申し上げます。

議長あいさつ



○世古明伊勢市議会議長

皆さん、こんにちは。ただいま御紹介をいただきました、伊勢市議会議長の世古でございます。

令和4年度伊勢市高校生議会の開催に当たりまして、市内8校から御参加をいただきました20名の高校生議員の皆さん、また、御尽力をいただきました各高等学校の関係者の皆様方、引率の先生方には、まずもって感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

伊勢市高校生議会は、皆さんが現在と未来の社会をつくるために、また、政治に参画いただくことを目指し、主権者教育の一環として、日頃感じている市政に対する疑問点や、これからの伊勢市に望むことを、議員となってお質問いただき、市政や議会への関心をより一層高めていただくことを目的に開催するものであります。

令和元年に1回目の高校生議会を開催させていただきました。そして、毎年開催をしていく予定でありましたが、令和2年、令和3年につきましては、新型コロナウイルス感染拡大により開催することができませんでした。この令和4年度につきましては、コロナ禍の中ではありますが、皆様方の御協力により開催することができ、本当にありがたく思っております。

当市のまちづくりや地域の課題は多種多様であり、どのように解決すべきか、そして私たち一人一人が何ができるかなど、広く深く考えることが求められておりますが、事前に皆様からいただいた質問を見させていただきますと、すぐできること、少し時間がかかるが検討を要すること、また、できるようにどうしていくのか、様々な意見が出されております。そして、今後の市政に反映させることができるものと思っておりますし、貴重な御意見をいただいたと思っております。

今日は慣れない場所で、少し緊張されているかと思いますが、力を抜いて、また、皆様の若さで頑張ってくださいと思います。そして、この高校生議会参加を機に、市政への関心、そして、将来は私が伊勢市のために、市民のために、この地域のために議員となって頑張りたい。今度は市議会議員として、この中の皆さんがそちらに座られることを望むことであります。

最後になりますが、伊勢市高校生議会が皆様にとって、そして伊勢市にとっても有意義なものとなりますことを御祈念申し上げ、主催者を代表しての挨拶といたします。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長  
世古議長、ありがとうございました。  
消毒のため、暫時休憩いたします。

〔休憩〕

◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長  
休憩を解き、再開いたします。  
続きまして、鈴木健一市長より御挨拶をいただきます。

### 市長あいさつ



○鈴木健一伊勢市長

皆さん、改めましてこんにちは。本日は、令和4年度の高校生議会を開催するに当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

まずもって、開催に当たりまして、御尽力をいただきました各高校の皆様をはじめ、関係者の皆様に感謝を申し上げたいと思います。

皆様方には、18歳になられた方もいらっしゃると思いますけれど、先の参議院選挙でも投票された方もいらっしゃると思います。また、本年4月には法律が改正をされまして、成人となる年齢も18歳に引き下げられたところがございます。皆さんの暮らし、生活の中にはですね、政治や行政、議会について無関心であったとしてもですね、無関係でいることはありません。そういった中で、こういった高校生議会に参加をいただいて、様々な政治に御関心を持っていただければと思っております。

また、伊勢市におきましては、これから伊勢神宮の御鎮座するまちとして、これから次の御遷宮も予定されている時期がだんだんと近づいてきております。一番直近、近くでありますと、令和7年、3年後にはですね、関西万博の時に例年ですと、山口祭という神宮の式年遷宮が始まる行事がスタートします。そして、その後、お木曳行事であったり、遷宮行事、こういったものが一步一步近づいてきますけども、ぜひ皆様方にはそういったところで御参画もいただきたいと思っておりますし、皆さんがこれからのまちをつくっていく主役となることを、心から期待をしたいと思っております。

今日はですね、なかなか慣れない場所かもしれませんが、議会の中で大切なことは、諦めないことだと思っております。これはこうや、と思ったことは、納得できやんことはしつこく質問を重ねてですね、是非そんな答えじゃ納得できやんと、一生懸命質問いただくことを心から念願申し上げます、挨拶に代えさせていただきます。どうぞ頑張ってください。

◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長

鈴木市長、ありがとうございました。

消毒のため、暫時休憩いたします。

〔休憩〕

◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長

休憩を解き、再開いたします。

続きまして、高校生議員の紹介に移ります。

議会事務局長より紹介をお願いいたします。

○中村昌弘伊勢市議会事務局長

改めましてこんにちは、よろしくお願ひいたします。議会事務局長の中村と言います。お手元の「伊勢市高校生議会プログラム」の席次表の議席番号順で、学校ごとに名前をお呼びしますので、1人ずつ返事をして、起立していただきまして、最後に全員で礼をしていただいて、着席してください。よろしくお願ひいたします。



はじめに英心高等学校、1番 中林慶獅議員、2番 作田湧紗久議員、3番 作田夕妃乃議員。続きまして、皇學館高等学校、4番 鯖戸朝陽議員、5番 河井滯音議員、6番 稲熊和彦議員。続きまして、伊勢工業高等学校、7番 市原久志議員、8番 野島 結羽議員。続きまして、伊勢学園高等学校、9番 渡辺舞乙議員、10番 森本伊織議員、11番 山本雄大議員。続きまして、伊勢まなび高等学校、12番 丹川凜議員、13番 谷口萌那議員、14番 西山龍青議員。続きまして、宇治山田商業高等学校、15番 加藤 沙織議員、16番 荒木優那議員、17番 上谷茉央議員。続きまして、宇治山田高等学校、18番 池田真梧議員。19番 河邊希里斗議員は、本日欠席でございます。続きまして、伊勢高等学校、20番 西崎吏玖議員、21番 尹嘉寛議員。

以上で、高校生議員の紹介を終わります。

続きまして、参加議員の紹介に移ります。先ほど、御挨拶を申し上げました世古議長と進行を行っております広報広聴検討分科会の藤原副会長以外の参加議員につきまして、順に名前をお呼びしますので、その場で御起立をお願いいたします。

始めに、北村勝副議長。続きまして、上村和生広報広聴検討分科会会長及び産業建設委員会委員長。続きまして、井村貴志産業建設委員会副委員長。続きまして、吉岡勝裕教育民生委員会委員長。続きまして、宮崎誠教育民生委員会副委員長。続きまして、品川幸久総務政策委員会委員長。続きまして、福井輝夫総務政策委員会副委員長。続きまして、野口佳子広報広聴検討分科会委員。続きまして、野崎隆太広報広聴検討分科会委員。続きまして、久保真広報広聴検討分科会委員。続きまして、宿典泰議員。続きまして、浜口和久議員。続きまして、西山則夫議員。続きまして、辻孝記議員。続きまして、岡田善行議員。続きまして、吉井詩子議員。続きまして、鈴木豊司議員。続きまして、楠木宏彦議員。続きまして、中村功議員。続きまして、大西要一議員。続きまして、川口浩議員。

以上で、伊勢市議会の参加議員の紹介を終わります。

#### ◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長

ただいまから伊勢市高校生議会の議長は、伊勢まなび高等学校の丹川凜議員、伊勢高等学校の尹嘉寛議員、皇學館高等学校の鯖戸朝陽議員の順に務めていただきますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、伊勢まなび高等学校の丹川議長、議長席のほうにお着き願います。

#### 各校の質問及び答弁



◎丹川凜議長（伊勢まなび高等学校）

伊勢まなび高等学校の丹川凜です。よろしくお願いいたします。

これより市政に対する質問を行います。

発言通告がありますので、順次許可することにいたします。

始めに、英心高等学校、1番 中林慶獅議員、2番 作田湧紗久議員、3番 作田夕妃乃議員。

## 英心高等学校

### 【被害想定・ハザードマップについて】



○英心高等学校

【1番 中林慶獅議員、2番 作田湧紗久議員、3番 作田夕妃乃議員】

100年から150年の間隔で起こると言われている南海トラフを震源とする巨大地震が、近い将来、発生するのではないかとされています。

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、津波の恐ろしさを日本人は改めて実感したかと思えます。私たちはまだ小学生でしたが、テレビで報道されているのを見て、すごく恐怖を感じたのを覚えています。南海トラフ地震も東日本大震災の時と同じく震源地の予測されているのは海底です。発生した時には津波が来るのは、ほぼ間違いないかと思われまます。伊勢市は、伊勢湾に面しており、英心高校から海までの距離は約5キロほどです。また、津波が起こった時には、川を逆流して、被害範囲が拡大します。英心高校から勢田川までは、約400メートルしか離れていません。

そこで質問ですが、伊勢市のホームページに津波が発生した際のハザードマップが載っています。英心高校のある伊勢市駅周辺は最大3メートルの津波に襲われると想定されています。これは、何を基準に想定をしているのでしょうか。

また、防災・減災教育として防災訓練が関東大震災のあった9月1日前後に毎年行われます。日本は、世界で見ても地震が多い国であり、また、火山も多くある国です。さらに夏が近づくと台風や、最近では線状降水帯による洪水や土砂崩れなどの被害もあるため、いつどのような形で災害が私たちを襲ってくるのか分かりません。

三重県には活火山はありませんが、南海トラフ地震、それによって発生した津波の被害について、それぞれで伊勢市全体ではどのくらい出ると想定されていますか。また、それを減らすために伊勢市で行っている政策などはありますか。

◎丹川凜議長（伊勢まなび高等学校）

総務政策委員会、大西委員。



●大西要一総務政策委員会委員

英心高等学校の皆さんからの質問、「被害想定・ハザードマップについて」にお答えします。

お手元にお配りした「伊勢市防災マップ」6ページ上段を御覧ください。御質問いただいたハザードマップの基準についてですが、伊勢市防災マップの津波ハザードマップは、三重県の作成した、南海トラフ地震が発生した場合の三重県津波浸水予測図を基に掲載しています。

また、ハザードマップの浸水深の目安については、国土交通省の水害ハザードマップ作製の手引に基づいて作成しています。6ページの凡例にあるように、区分を大人の膝までつかれる程度を0.5メートル以下とし、2階の床下まで浸かる程度を0.5メートルから3.0メートル、2階の軒下まで浸かる程度を3.0メートルから5.0メートル、2階の屋根以上が浸かる程度を5.0メートルと段階に分けて表記しています。

防災マップ、14ページを御覧ください。伊勢市駅周辺は0.5メートル、宇治山田駅周辺は0.5メートルから3.0メートルとなっています。防災マップでは詳細な浸水深は読み取れませんが、平成23年に三重県が公表した津波浸水予測図による詳細な浸水深、及び津波到達時間を紹介いたします。伊勢市駅の近鉄側は、浸水深0.44メートルで津波到達時間は約3時間40分、皆さんが通っている英心高等学校は、浸水深1.0メートルで津波到達時間は約2時間40分となっています。

また、伊勢市の南海トラフ地震における被害想定についてですが、三重県から試算値が出ていて、理論上、最大クラスの地震が発生した場合に、約9万8,000棟の建物のうち、約4万1,000棟に被害があり、死者数は、計画策定時に設定した人口、約13万人のうち約7,900人と想定しています。これらの被害想定に対して、市が取り組んでいる減災の取組ですが、ハード面では、津波浸水エリアの津波避難計画を立て、この計画に基づき津波避難タワーを建設してきました。

また、市役所や消防本部が、津波の浸水エリアにあったことから、倉田山公園野球場・ダイムスタジアム伊勢の隣に、新たに消防本部と防災センターを併設して整備をいたしました。災害時に司令塔となる伊勢市災害対策本部を、防災センターで運営しています。最近では、避難所となる市内の小中学校にマンホールトイレを設置し、災害時の避難所対策に取り組んでいます。



次に、ソフト対策として、地域や企業において防災講習会や体験会を開催しています。今はコロナ禍で少なくなっていますが、以前は毎年1万人以上の方が受講や体験をしていただいていた。また、地域で作るハザードマップや避難訓練の支援を行い、防災意識の向上にもつなげています。

伊勢市の防災対策のキーワードは、自分の身は自分で守る「自助」、まちの安全は自分たちで守る「共助」、行政による防災対策「公助」としています。「自助」については、お住まいの地域のハザードマップを見ていただくことも大事な取組であるため、本日お配りした防災マップで、お住まいの地域のハザードについて確認をしていただき、友達や家族で災害時の対応について話し合いの機会を作っていただければと思います。なお、伊勢市以外にお住まいの方も、お住まいの自治体でハザードマップを作っておりますので確認いただきたいと思います。

以上で英心高等学校の皆様への答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

◎丹川凜議長（伊勢まなび高等学校）

英心高等学校。

○英心高等学校

【1番 中林慶獅議員、2番 作田湧紗久議員、3番 作田夕妃乃議員】

ありがとうございました。災害はいつ発生するかわからないため、今日お聞きした内容を全校集会で共有をして、防災・減災について関心を持ってもらい、英心高校の生徒の被害を最小限に抑えられるようにしたいと思います。

◎丹川凜議長（伊勢まなび高等学校）

消毒のため、暫時休憩いたします。

〔休憩〕

◎丹川凜議長（伊勢まなび高等学校）

休憩を解き、再開いたします。

次に、皇學館高等学校、4番 鯖戸朝陽議員、5番 河井滯音議員、6番 稲熊和彦議員。

## 皇學館高等学校

### 【地産地消推進に向けた新たな取り組みについて】



○皇學館高等学校

【4番 鯖戸朝陽議員、5番 河井滯音議員、6番 稲熊和彦議員】

皇學館高等学校より、地産地消推進に向けた取組についてご質問いたします。

ここ数か月、物価や公共料金等の上昇が社会的な問題となっており、私たちも消費者の1人として物の値上がりを実感しています。私たち3名は、伊勢市とその近郊のまちに暮らし、伊勢市が観光地としても、住みやすいまちとしても魅力あるまちであり続けてほしいと考えています。

生活者が暮らし続けたいまちであるためには、まずは家計と直結する食を取り巻く問題へのアプローチが必要であると考えました。そこで調べるうちに、私たちは伊勢市の地産地消推進の取組に関心を持ちました。地産地消の推進はSDGsの視点の1つでもありますので、魅力あるまちづくりのために、この視点から質問と提案を述べさせていただきたいと思います。

第2次伊勢市農村振興基本計画によると、地産地消推進に関係する様々な取組目標がありました。中でも学校給食に提供する地場農産物提供回数の目標値が、2027年度までに6回となっている点に着目しました。私たちも小中学校の給食の時間が思い出深く残っているからです。

そこで、伊勢市教育委員会のホームページから学校給食の様子を調べてみました。それによると、小中学校の給食は年間約180回です。ここで1つ目の質問です。農村振興基本計画の目標回数6回とは、つまり月1回程度の計算と推測しました。現在学校給食では、毎月19日を「食育の日」として地場食材を多く取り入れた献立を提供しているわけですので、基本計画の数値目標として、すでに達成したと考えてよろしいのでしょうか。

ただし、ホームページを読み進めますと、学校給食において、白米は100%市内産を達成しているものの、他の野菜類は葉野菜が市内産と書いてあるのみで、地場産物達成数値目標46%に対して、小中学校合わせて約29.5%の達成率となっていました。ここで2つ

目の質問です。地場産物 50%達成を目指して、伊勢市としては今後、どのような取組をされていくつもりなのか教えてください。

次に、3つ目の質問です。地産地消推進へのアプローチとして、学校給食の達成率だけでなく、生産者への支援や、観光業と提携したビジネスモデルとしての新たな取組などは考えていらっしゃるのでしょうか。すでに、伊勢市地産地消の店の認定などの取組があることは理解していますが、例えば認定の拡大目標や、実績報告などにおける数値的な目標がどこにあるのか分かりませんので、新たな方策を講じるお考えがあれば教えてください。

さらに、ここからは提案です。地産地消の取組は、長期戦を覚悟した解決策を推進しなければならないと思います。しかし、地産地消を推進したくとも、農業従事者の高齢化や後継者不足がますます深刻になれば、数値目標の設定や改善も期待できません。

私たちは、学校給食のない高校生にはどのような方法で地産地消をイメージしてもらえるか、伊勢市の農作物を認知してもらうにはどのような方法があるか考えてみました。例えば「農業体験講座」などが実施できたら、高校生が農業全般に対する触れ合いの機会が持てるのではないかという提案です。

実際に同級生 319 名に 6 月、以下のようなアンケートをとってみました。

質問は、「やってみるとしたらどんな農業体験をしてみたいですか」で、農業への興味、関心があるかをはかってみました。回答数 377 で、以下の集計結果となりました。

「果物の収穫体験」58.07%、「きのこ狩り体験」13.88%、「花の栽培」11.05%、「野菜の栽培と収穫」9.92%、「田植えと収穫体験」7.08%。選んだ理由として果物の収穫体験をしたことがないので興味があるといった意見があったほか、果物の収穫はイメージしやすいという意見もあり、つまり農業体験に対して無関心ではないこともうかがえました。

以上の私たちの質問と提案に、伊勢市としての御回答と御感想をいただきますようお願いいたします。

#### ◎丹川凜議長（伊勢まなび高等学校）

教育民生委員会、吉岡委員長。



#### ●吉岡勝裕教育民生委員会委員長

それでは、皇學館高等学校、鯖戸朝陽議員、河井澪音議員、稲熊和彦議員の御質問にお答えいたします。

始めに、第2次伊勢市農村振興基本計画で定めている学校給食への地場農産物の提供回数についてですが、同計画では、伊勢市がその費用を負担して地場産の食材を使用した学校給食の回数を数値目標としており、令和8年度では年間6回を目標としております。令和3年度の時点において、この回数はすでに6回となり、目標を達成することができております。

次に、学校給食における地場産物の使用割合についてですが、地場産物の使用割合を高めるため、市内小中学校給食の献立作成会議において、納入業者の協力を得ながら、地元食材を積極的に取り入れられるよう、まずは、伊勢市教育振興基本計画で定めている地場産物達成数値目標46%を目指して、さらに献立の工夫を行ってまいります。

また、学校給食以外での地産地消推進のアプローチとしては、市内で採れた野菜や果物を食材として取り扱う飲食店やスーパーなどで地産地消の推進を行い、消費及び需要の拡大を図り、それらの店を地産地消の店として認定し、認定店であるサンファームおばたや、二見町の民話の駅蘇民などの産直施設において、市場以外の販路として活用していただき、新鮮で安全安心な農水産物を出荷していただくことで、生産者の所得向上や地域の活性化の一助となっております。今年度は、市内産のブランド品目である蓮台寺柿やいちごをおかげ横丁で販売をし、観光で訪れた方への今後の購買につながるPRに力を入れております。

次に、地産地消認定店の目標数値についてですが、平成29年度までを計画期間とする第2次食育推進計画では、認定店数の増加を挙げておりましたが、認定制度は一種のブランドであり、認定店舗数を増やすために敷居を低くしたとしても、かえって認定店という信頼・信用を失うことにもつながることから、店舗数を増やすことに躍起になることもない、といった意見もあり、現在の第3次食育推進計画では、数値目標をあげておりません。

しかしながら、制度創設の目的である、伊勢市の農林水産業の活性化・振興というところから外れることのないよう、地道に取り組んでいく必要があると考えております。

これまで、地産地消ということで地域を主体としてPRを行ってきましたが、今年度からは、地域以外の観光客もターゲットにするため、観光案内所や宿泊施設に地産地消の店認定店のリーフレットを置いていただき、広く地産地消の店の紹介にも取り組んでおります。

また、農業従事者の高齢化や後継者不足を解消するため、農地を貸し借りして、担い手といわれる農業法人や、集団で営農をされている方に、まとめて農地を耕作してもらう取組が進んでいます。このことにより、農業従事者は減少しても、耕作面積の減少を抑えられる効果があるほか、担い手が大きな農地で効率のよい農業を行うことにより、収穫量が増える効果があります。

最後に、校内において、農業体験についてのアンケートを実施いただき、ありがとうございました。御提案をいただきました、伊勢市の農産物を知ってもらい、身近に感じていただけるための取組については、今後、試験的に実施するなど、実現に向けて関係機関と調整を行っていきたいと考えておりますので、御理解をいただきたいと思います。

以上で皇學館高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

◎丹川凜議長（伊勢まなび高等学校）

皇學館高等学校。

○皇學館高等学校

【4番 鯖戸朝陽議員、5番 河井濤音議員、6番 稲熊和彦議員】

御答弁ありがとうございます。御答弁内容に対して、2点質問をさせていただきます。

1点目は、学校給食への地場農産物の提供回数の目標である年間6回を、現時点で達成されているとのことですが、目標回数を増やすことはお考えにないのでしょうか。もし難しい要因などがありましたら、教えていただけませんか。

2点目は、地場産物達成数値目標の46%を、献立の工夫で目指すとのことですが、具体的にどのような工夫なのでしょうか。

以上、2点について教えていただきますようお願いいたします。

◎丹川凜議長（伊勢まなび高等学校）

教育民生委員会、吉岡委員長。

●吉岡勝裕教育民生委員会委員長

それでは、再質問にお答えをさせていただきます。

まず、1点目の地場農産物の提供回数6回という数値目標は、伊勢市がその費用を負担して地場産の食材を使用した学校給食の回数であり、それ以外には地場産物を使用していないというわけではありません。そもそも学校給食における食材は、納入業者の協力のもと、市内産、近郊産、県内産、国内産という優先順位で地場産の食材を使用しており、地場産物の使用は、必要量の確保と価格において可能な限り、率先して行ってまいります。

また、2点目の献立の工夫については、地場産物を率先して取り入れられるよう、納入業者と定期的に会合を開き、地場産物の生産状況の情報収集を行っており、地場産物の活用しやすい時期を把握した上で献立の作成を行っています。

具体的には、みそ汁の具については、あおさを、果物であれば蓮台寺柿を選択するなどしていますが、これらについても必要量の確保と価格が課題となっていることをご理解いただきますようお願いいたします。

以上で皇學館高等学校の皆さんへの再質問の答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

◎丹川凜議長（伊勢まなび高等学校）

皇學館高等学校。

○皇學館高等学校

【4番 鯖戸朝陽議員、5番 河井濤音議員、6番 稲熊和彦議員】

質問への御回答ありがとうございます。私たちもこれを機会に、地産地消認定店などに注目するようになり、勉強になりました。ありがとうございました。



◎丹川凜議長（伊勢まなび高等学校）

ただいまより、14時30分まで休憩とします。再開3分前にブザーが鳴りますので、ブザーが鳴りましたら、自席までお戻りください。

〔休憩〕



◎尹嘉霓議長（伊勢高等学校）

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

伊勢高等学校の尹嘉霓です。よろしくお願いいたします。

市政に対する質問を継続いたします。

それでは、伊勢工業高等学校、7番 市原久志議員、8番 野島結羽議員。

### 伊勢工業高等学校

#### 【伊勢市におけるものづくり産業の発展について】



○伊勢工業高等学校

【7番 市原久志議員、8番 野島結羽議員】

私たちの質問は、「伊勢市におけるものづくり産業の発展について」です。2つ質問します。

1つ目は、伊勢市におけるものづくり産業に関わる就職先についてです。私たち伊勢工業生は、学校で様々な実習や授業を通して、専門的な技術や知識を学び、身につけています。また、保育所のクラスプレート作りなど、学んだことを地域貢献で発揮しています。

このことから、新たなことに挑戦できるような企業、会社が伊勢市にたくさんあれば、

私たちは伊勢市の工業、産業の発展に大きく貢献できると思います。伊勢工業生が活躍できる、働きやすい企業が集まり、ものづくり産業が盛んな伊勢市にしてほしいです。

しかしながら、伊勢市には工業団地が少なく、伊勢工業生が卒業した後に活躍できる場所、フィールドが少なく感じます。なぜなら、伊勢工業の卒業生の進路は、多くの人が、市外または県外に就職しているからです。昨年度の卒業生の就職先で見ると、南勢地区への会社への就職は、71社中18社、117人中31人です。

そこで伝えたいのは、外に出ていく人は伊勢市を離れたいから出るのではないということです。この地域は、自然が豊かでとても住み心地のよい地域です。伊勢工業生の多くは、この地域に残り働きたいと考えています。しかし、働く場所が十分でないため、他地域の進路先を希望すると考えます。

伊勢市が、新しく工場を建てる企業に補助金を出していることは知っていますが、そのほかに、ものづくり産業の発展について取り組んでいることはありますか。

2つ目は、古き価値ある建物の利活用です。私は風情ある伊勢市の町並みに建っている、古き価値ある建物が使われずに傷んでいると感じています。

私は現在、「住」をテーマにしたものづくりを建築科で学び、授業や実習で、みえこども城に置く椅子の制作などに取り組んでいます。実際に古くからある商店街のカフェでは、外観の一部がタイル壁になっていて、昔っぽさが感じられつつも、店内は木素材のインテリアが使われていて、木の温かさと植物の緑の癒しも合わさって、心落ち着く雰囲気もあり、若い人がそのカフェに訪れている印象を受けます。このカフェは、この歴史ある商店街の中で、古さを活用していることで他のカフェと違いができていたと思います。

そこで私は、なぜ古さを活用した魅力的な店舗が増えていかないのだろうと思いました。増えていけば、ものづくりの観点からも再生できるとともに、市の活性化にもつながっていくはずですが。こういった古き価値ある建物を活用した取組を増やすことに、伊勢市としてはどうお考えですか。

#### ◎尹嘉霓議長（伊勢高等学校）

産業建設委員会、井村副委員長。



#### ○井村貴志産業建設委員会副委員長

伊勢工業高等学校の皆さんからの質問、「伊勢市におけるものづくり産業の発展について」にお答えします。

まず、伊勢市におけるものづくり産業に関わる就職先についてお答えします。市では、伊勢商工会議所及び伊勢小俣町商工会と連携し、市内製造業者を含む企業の課題解決、経営改善及び経営力の向上を図っています。

伊勢商工会議所及び伊勢小俣町商工会では、それぞれ相談窓口の設置や各種セミナーの開催、市と協働した経営力向上につながる取組に対する支援等を行っています。

市のものづくり産業の支援については、市内企業が行う新製品・新技術の研究開発や伝統工芸品産業の再生及び発展に対する支援、製造業者の管理者育成を目的とした人材育成セミナーの実施、また、企業が学術機関への技術相談や共同開発研究するための橋渡しなど、製造業者の技術開発や人材育成に取り組んでいます。

また、コロナ禍にあっては、市、伊勢商工会議所及び伊勢小俣町商工会等が協力し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により売上げが減少した企業に対して支援金の交付、新しい生活様式に対応するための取組に対する補助金の交付、及び地域経済の活性化のための商品券発行事業などに取り組み、感染症により経営状況が厳しい市内事業者が継続して事業を続けられるよう支援を行っています。

以上のような、地域経済の活性化に向けて様々な施策を展開し、伊勢工業高校の生徒の皆さんをはじめ、次世代の皆さんにとって、魅力ある働きやすい伊勢市を目指して地域経済の振興に取り組んでまいります。

なお、採用意欲がある企業の情報発信を支援するため、伊勢市を含む南三重地域の16市町が連携し、求職者と求人企業を取り持つ「南三重就活ナビ」というマッチングサイトを構築していますので、ぜひご活用ください。

次に、古き価値ある建物の利活用についての質問にお答えします。伊勢市では、伊勢市景観計画を策定し、良好な景観づくりに取り組んでいます。その中で、内宮前のおはらい町通り周辺と、二見の旅館街周辺を、歴史的町並みの景観を保全すべき地区に指定し、歴史的な建物の修繕や改修などに対して補助金を交付しています。特に内宮おはらい町地区では、リノベーションや新築により、伊勢らしい建物がたくさん立ち並び、観光客で大変にぎわっております。

また、中心市街地のにぎわいを向上させるために、伊勢市中心市街地活性化基本計画を策定し、空き店舗を借りる家賃補助や、空き店舗のリフォーム費用補助を行っています。この区域の中にある河崎地区では、古くからある蔵や町屋を、飲食店や美容院、河崎商人館などに改修し、歴史的な建物を生かしたまちづくりが行われています。

御意見をいただいた、歴史的な建物を生かしたまちづくりを行うことで、市の活性化につながると考えておりますので、今後もこれらの取組の継続をしていきます。

以上で伊勢工業高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

◎尹嘉霓議長（伊勢高等学校）

伊勢工業高等学校。

○伊勢工業高等学校

【7番 市原久志議員、8番 野島結羽議員】

伊勢市におけるものづくり産業に関わる就職先についてお答えいただき、ありがとうございます。伊勢商工会議所及び伊勢小俣町商工会では、相談窓口の設置、セミナーの開催などの製造業者の技術開発や人材育成に取り組み、また、コロナ禍でも伊勢市、伊勢商工会議所、伊勢小俣町商工会が協力し、経営状態が厳しい企業に対して補助金の交付など支援をされていることが分かりました。目に見えるところだけでなく私たちが気づかない視点で、市が様々な支援をされているのを知ることができて、良かったです。これらの活動を継続し、より働きやすい伊勢市にしていってほしいです。

また、古き価値ある建物の利活用についてお答えいただき、ありがとうございます。お答えいただいたように内宮前のおはらい町周辺や、二見の旅館周辺の景観は統一感があって素敵な空間があり、伊勢市の魅力だと思います。観光客の方が多く訪れるところに力を入れることはもちろん重要だと思いますが、地元の人が足を運ぶことができたり、気軽に利用できたりする計画も必要だと思います。

今回の高校生議会をきっかけに伊勢市について考えることができ、伊勢市にはいい所がたくさんあるなど感じました。色々な取組によって変化していく伊勢市に、期待の気持ちでいっぱいです。また、伊勢市のよりよい変化に伊勢工業もお手伝いさせていただきたいと思います。

◎尹嘉霓議長（伊勢高等学校）

消毒のため、暫時休憩いたします。

〔休憩〕

◎尹嘉霓議長（伊勢高等学校）

休憩を解き、再開いたします。

次に、伊勢学園高等学校、9番 渡辺舞乙議員、10番 森本伊織議員、11番 山本雄大議員。

### 伊勢学園高等学校

#### 【伊勢市の観光施策について】



○伊勢学園高等学校

【9番 渡辺舞乙議員、10番 森本伊織議員、11番 山本雄大議員】



私たち伊勢学園高等学校からは、「伊勢市の観光施策について」質問させていただきま  
す。伊勢市の観光振興基本計画と題したホームページを見せていただいたところ、現在、  
伊勢市が取り組んでいる観光事業は、アフターコロナを見据えたインバウンドの誘客をど  
のように取り組むか、ということを第一に考えられていることを知りました。これは、外  
国人観光客の誘客をターゲットにしたものだと思います。伊勢市だけではなく、近隣の鳥  
羽市、志摩市等を含め、伊勢志摩地域全体で連携して取り組んで誘客していることを書い  
てありました。

伊勢志摩地域は、伊勢神宮を筆頭に、鳥羽水族館、ミキモト真珠島といった日本を代表  
する観光地が各地に点在しています。鳥羽や志摩の風光明媚な自然やイセエビ、アワビと  
いった海産物、また、外国人女性が興味を感じる真珠といった、多くの観光客を呼び込む  
ことができる魅力がたくさんあります。

しかし、ここ3年は、新型コロナウイルス感染症の影響で外国人の観光目的の入国が禁  
止され、積極的な誘客活動を行うのは、非常に困難な状況になっていました。ところが、  
本年5月から国は、観光目的の外国人の入国を試験的に再開すると発表しました。新型コ  
ロナウイルスの感染状況が比較的落ち着いている国から、少人数限定のツアーを受け入れ、  
感染者が出た場合に対する対策も考えているということをお聞きしました。観光業界も国  
の方針を受け、インバウンドの受入れに対する規制緩和を求める声を上げるなど、積極的  
に外国人観光客を受け入れていこうという機運が高まっています。

仮に数年後、新型コロナウイルス感染症が終息したとして、インバウンドにより観光地  
が賑わいを見せたとします。しかし、現在の取り組みでは、国内観光客の足を遠のかせる  
結果になるのではないのでしょうか。外国人観光客の行き過ぎた増加により、街全体が汚れ  
たり、騒音などで住民に被害をもたらすオーバーツーリズムを生む結果になるのではない  
かと思います。また、国内観光客は、外国人観光客が多く訪れ、にぎわっている場所を避  
けるのではないのでしょうか。

今後、伊勢志摩地域全体での連携による誘客活動を計画するのであれば、もう少し、積  
極的に国内観光客が、安心して来ることができる施策や地元住民への配慮といった問題に  
取り組むべきだと思いますが、この件に関してどのように考えているのか、御意見をお伺  
いしたいと思います。よろしく願いいたします。

◎尹嘉霓議長（伊勢高等学校）

産業建設委員会、井村副委員長。





○井村貴志産業建設委員会副委員長

伊勢学園高等学校の皆さんからの質問、「伊勢市の観光施策について」にお答えします。伊勢市の観光分野における施策及び事業の推進指針を示す伊勢市観光振興基本計画については、多くの観光関係者の御協力のもと、令和4年度から令和7年度の4年間を対象とした計画を本年3月に策定し、伊勢市の観光振興の目標等を共有するためにも、現在ホームページ等で公表しています。

本計画では、5つの基本理念、「①日本を理解し、伊勢の“常若の精神”を理解してもらおう」、「②さまざまな人が安全に安心して楽しめるまち」、「③訪れる人が満足のできるまち」、「④住む人も満足ができるまち」、「⑤観光を通じて経済的効果を高める」を踏まえ、4年後の伊勢のありたい姿として、「多様な主体を受け入れ、常若の精神とにぎわいにあふれるまち」を掲げ、実現に向け国籍や生活文化の違い、また障がいの有無などに関わらず快適に心地よく伊勢市に来訪していただくため取り組んでいるところです。

外国人観光誘客については、本計画策定時点及び現在に至っても、新型コロナウイルス感染症の影響は収束に至っているとは言い難い状況が続いておりますが、旅行業者等を受入責任者とする添乗員付パッケージツアーによる外国人観光客の受入れについて、令和4年6月10日より一部の地域に限り開始されているところです。

コロナ禍前において、本市に訪れる外国人観光客の割合は日本人観光客に比して少ない状況ではありますが、将来、少子高齢化・人口減少などによる課題解決の糸口になりうるインバウンド需要は期待するところでもあります。

本市は、国内誘客において次期式年遷宮に向け様々な行事が行われることにより、伊勢市に新たな人の流れを生み出す動きが生じることを見据えた上で、伊勢志摩地域や県などと連携した誘客に取り組む方針です。

また、インバウンド推進については、国際的にも注目を集める大阪・関西万博を契機とした誘客促進を関西広域により図ることも視野に入れつつ、ターゲット地域については、これまでと同様に他地域・団体との連携ではアジア、市単独では欧米というように地域を分け、取り組む方針です。

オーバーツーリズムについての御意見をいただきましたが、これらの展開においては、当市の文化への理解や環境等に配慮を促すため、観光の核となる神宮を中心に、歴史文化や物語性の魅力に共感していただけるよう、ターゲットの属性などを定め事業展開しており、今後も同様の考えのもと、関係観光団体とも協力の上、取り組んでまいります。

伊勢市にこれまでお越しいただいてきた多くの国内観光客の期待に沿いつつ、観光を通して国内外問わずに訪れる人も住む人も双方が心を通じて交わり、安全・安心で心地よく過ごし満足できるまちを目指し、観光客の総合的な満足度と、受け入れる側となる市民の満足度を高める施策を今後も推進してまいりたいと考えております。

以上で伊勢学園高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

◎尹嘉霓議長（伊勢高等学校）

伊勢学園高等学校。

○伊勢学園高等学校

【9番 渡辺舞乙議員、10番 森本伊織議員、11番 山本雄大議員】

どうもありがとうございました。伊勢市は、伊勢神宮の関連した商業施設が多くあり、それらを含めた観光産業による収入が大きなウエイトを占めていると思います。ところが、昨今の新型コロナウイルスの影響で様々な規制があり、観光客が激減し、市の財政も大幅な収入減になっているのではないかと思います。伊勢市に住んでいる人たちにとっては、これが生活面にも大きな影響を与えるのではないかと思います。

しかし、このような私たちの不安に対し、20年に1回実施される伊勢神宮の式年遷宮に向けての様々な行事が行われ、それが起爆剤になるということや、数年後開催される大阪・関西万博を契機に、伊勢志摩地域の各自治体や県と連携した誘客に取り組むということをおっしゃっていただきました。こういった伊勢市の取組は、私たちの不安を払拭してくれると感じました。

また、南勢地区は、少子高齢化・人口減少といった課題もあり、そういった課題を解決するための糸口として、インバウンド効果が大きいこともお聞きしました。このように伊勢市を活性化させるために様々な施策を取ってみえることを聞き安心しました。伊勢市が潤わなければ、私たちの生活面にも大きな打撃を与えるのではないかと考えています。

また、私たちが今日質問させていただきました外国人観光客に対する取組ですが、この問題に対して、観光を通して国内外問わずに訪れる人も住む人も双方が心を通じて交わることで、安全・安心で心地よく過ごし満足できるまちを目指し、双方の満足度を高める施策を行っていくということをお聞きし、安心しました。

南勢地区に住む私たち高校生にとって一番身近で大切な問題は、十分な求人先があり、就職の不安を持たずに生活することができることだと思います。この件に関しても十分考えていただきたいと思っています。

本日は私たちの質問に丁寧にお答えいただきまして、ありがとうございました。おかげで私たちが持っている不安を払拭することができたような気がします。これからもみんなが安心して暮らしていけるようによろしくお願ひします。

◎尹嘉霓議長（伊勢高等学校）

消毒のため、暫時休憩いたします。

〔休憩〕

◎尹嘉寛議長（伊勢高等学校）

休憩を解き、再開いたします。

次に、伊勢まなび高等学校、12番 丹川凜議員、13番 谷口萌那議員、14番 西山龍青議員。

## 伊勢まなび高等学校

### 【登下校等に利用するバスの増便について】



○伊勢まなび高等学校

【12番 丹川凜議員、13番 谷口萌那議員、14番 西山龍青議員】

伊勢まなび高等学校、丹川凜、谷口萌那、西山龍青です。私たち高校生が登下校等に利用するバスについて、質問させていただきます。

伊勢市には、伊勢神宮をはじめとする観光地が多く存在します。そのため、観光客の方も利用するバスが毎日たくさん走っているのを目にします。私たち高校生の中でも、通学の手段にバスを選ぶ人は決して少なくありません。

さて、私たちが通っている伊勢まなび高校には、午前の部、午後の部、夜間部があります。8時過ぎに午前の部の授業が始まり、夜間部の授業が終わるのは21時過ぎです。また、午後の部の生徒が夜間部の授業を受けた場合でも、終わるのは早くても19時です。しかし、最寄りのバス停、伊勢警察署前から出るバスは最終の便が18時45分です。夜間の授業を受けている生徒は、そもそもバスを利用することができません。また、他の学校と下校時間が重なる16時以降のバスは、高校生でほぼ満員です。それに加え、雨などの悪天候の日はさらに混み合います。さらに、最近は新型コロナウイルス感染症拡大の不安から、「混んでいると他人と密接になるので、バスに乗るのをやめた」という声もあります。

ちなみに、伊勢警察署前からは、宇治山田駅までは約1.5キロメートル、伊勢市駅前までは約2キロメートルの距離です。その間は、ほぼ日影がありません。また、夏は暑く冬は寒く、高校生が1人で歩こうと思うと夜は怖いです。実際、私は午後の部ですが、昨年度は夜間の授業を受けていました。その際、夜1人で歩くのは少し怖かったです。雨の日でも約1.5キロメートルの距離を歩かなければいけないため、間に合うバスが1本でもあればと思っていました。

私は夜間部の生徒です。私を含め、夜間部の生徒の中には保護者に車で送迎してもらう生徒もいます。暗い中、駅まで歩いている生徒も多いです。バスがあれば、夜道を1人で

歩くことも、保護者に負担をかけることもなくなるのではないかと思います。だからこそ、私たち高校生がより利用しやすいよう、今以上にバスをたくさん走らせてほしいと思います。

そこで、バスをはじめとする公共交通機関の整備について現状や課題、解決策などをお聞かせください。

◎尹嘉霓議長（伊勢高等学校）

産業建設委員会、上村委員長。



●上村和生産業建設委員会委員長

伊勢まなび高等学校の皆さんからの質問にお答えをいたします。「登下校等に利用するバスの増便について」を、お答えいたします。

三重交通伊勢営業所に確認させていただきました。伊勢まなび高等学校から宇治山田駅や伊勢市駅に向かう下校便の乗車状況は、御指摘いただきましたとおり、15時台後半から16時台にかけての運行本数は4本ございますが、いずれの便も座席がほぼ満席の状況であり、お立ちいただいている方もみえる便がございます。17時台の便は、運行本数は3本で座席数の8割程度の乗車率、18時台の便は、運行本数は2本で座席数の3割程度の乗車率となっており、雨天時については、バスの利用が増えることから、状況により臨時バスを増発して対応しております。しかしながら、伊勢警察前から宇治山田駅や伊勢市駅に向かう夜間の最終便は、18時45分発となっており、それ以降は、バスの運行がなく、徒歩などによる移動を余儀なくされ、御迷惑をおかけしております。

地域公共交通が抱える課題として、現在の三重交通伊勢営業所管内の路線バスについては、外宮と内宮を結ぶ外宮内宮線やCANバス以外のバス路線は、赤字路線となっており、さらに新型コロナウイルス感染症の影響もあり、運賃収入が大幅に減少しております。また、昨今の運転手不足により、現在の路線を維持するだけで精一杯の状況となっており、夜間の増便については、大変厳しい現状にあります。

新型コロナウイルス感染症防止対策として、バス車内の抗菌・抗ウイルス加工を行い、運行中は外気導入空調の管理や窓の一部開放を実施しているほか、直接触れることが多いつり革や握り棒などを中心に定期的に消毒や清掃を実施し、皆さんが安心してバスを御利用いただけるようにしております。

今後、自家用車に依存し過ぎるのではなく、できる限り多くの方がバスをはじめとした

公共交通機関を御利用いただくことで、高校生や高齢者の方が通学や買物、通院などの日常生活に利用いただく路線を維持することができますので、今後とも公共交通機関の御利用をお願いしたい、との回答をいただいたところであります。

路線バスの増便については、大変厳しい状況にあるというのが、現状であります。今後、夜間の通学方法については、三重県の担当部局へ問題提起を行っていきたいと考えています。

また、学校から駅までの徒歩移動時の安全対策としましては、伊勢市で管理している道路に関しましては、道路照明や防犯灯の増設について検討していくとともに、県道部分については、三重県に対して道路照明などの対策を要望してまいります。御理解をお願いいたします。

以上で伊勢まなび高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

◎尹嘉霓議長（伊勢高等学校）

伊勢まなび高等学校。

○伊勢まなび高等学校

【12番 丹川凜議員、13番 谷口萌那議員、14番 西山龍青議員】

御答弁いただき、ありがとうございました。私たちも今後、公共交通機関を積極的に利用して、路線の維持に貢献していきたいと思えます。質問内容を考えた後、私たちでも何かアイデアはないかと考えてみました。駅の近くの駐輪場が自転車であふれているのを目にしたので、駐輪場の整備も効果的な取組ではないかと思いました。参考にさせていただけると嬉しいです。改めまして、本日はありがとうございました。

◎尹嘉霓議長（伊勢高等学校）

ただいまより、15時20分まで休憩とします。再開3分前にブザーが鳴りますので、ブザーが鳴りましたら、自席までお戻りください。

〔休憩〕





◎鯖戸朝陽議長（皇學館高等学校）

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

皇學館高等学校の鯖戸朝陽です。よろしくお願いいたします。

市政に対する質問を継続いたします。

宇治山田商業高等学校、15番 加藤沙織議員、16番 荒木優那議員、17番 上谷茉央議員。

宇治山田商業高等学校

**【通学路・生活道路の安全・保守や改善について】**



○宇治山田商業高等学校

**【15番 加藤沙織議員、16番 荒木優那議員、17番 上谷茉央議員】**

宇治山田商業高校です。この度はこのようなお時間をいただきありがとうございます。私たち3名は、それぞれ異なる市と町に暮らしながら伊勢市の宇治山田商業高校に通っています。そこで私たちが暮らしているそれぞれの地域の共通課題として、自動車、自転車の衝突事故、転倒事故、見えにくい標識、それら事故につながる不安行為などが挙げられました。これらについて質問させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、私たちの身近な場所から具体例を挙げていきたいと思えます。資料①を御覧ください。

こちらは私たちが通う宇治山田商業高校前の坂です。ここでは急なカーブがあるため、雨の日に転倒したり、急な車の飛び出しによって起こる事故が多いです。それは自動車に限らず、自転車にも言えることです。実際、宇治山田商業高校に入学してからも度々自転

車で事故が起きたと耳にすることがありました。通学として利用する学生が被害者になるだけでなく、加害者になってしまうのは心苦しく思います。

そこで私たちが考えた改善策として、もともとは資料②-1の箇所にあった白線を、資料②-2のように停止線を下げたり、徐行標識を設置してはいかがでしょうか。停止線を下げることにより、急ブレーキからの衝突事故を防ぐことができ、標識を設置することで普段から危険な箇所を意識して運転することができると思います。

また資料③を御覧ください。ここは先ほどの交差点です。この周辺を見ると坂の近くにはバス停があり、車線が1本にもかかわらず交差点が2か所あるので、渋滞が起りやすく右折しにくいことに気がつきました。また資料④-1を見ると分かるように、バスが左折する際に反対車線にはみ出しています。

そこで資料④-2のように、この箇所を道路として活用し、車線を増やすよう三重県の道路管理課に働きかけをお願いできませんでしょうか。そうすることで車の出入りがスムーズになり、渋滞を緩和することができると思います。宇治山田商業高校前だけに限らず、周辺にも似たような箇所がいくつもあります。

資料⑤の箇所では信号の待ち時間が長く、車と自転車のどちらも渋滞しやすいです。

さらに資料⑥を御覧ください。こちらは休日と平日の渋滞状況です。この資料から分かるように平日に渋滞していることが分かります。この箇所での改善策として資料⑦のように待ち時間の分かる信号を取り付けることにより、フライング横断など不安全な行為を減らすことができると思います。

先日、資料⑧の伊勢市の公式ホームページで、通学路の緊急合同点検結果（対策案）の公表、伊勢市通学路交通安全プログラムを拝見しました。すでに多くの箇所を対策していただき、ありがとうございます。3月31日現在の通学路の対策箇所一覧にある対策予定の箇所について、早急に対応をお願いします。

最後に、神奈川県厚木市のような資料⑨の「スマ報」というスマートフォンの位置情報と写真機能を活用し、地域住民から道路の損傷に関する声を拾うことのできるシステムを伊勢市で導入する予定はありますか。私たちはこのように考えていますが、伊勢市の見解はどのようなものですか。御回答をよろしくお願いたします。

#### ◎鯖戸朝陽議長（皇學館高等学校）

産業建設委員会、上村委員長。



●上村和生産業建設委員会委員長

宇治山田商業高等学校の皆さんからの質問、「通学路・生活道路の安全・保守や改善について」お答えをいたします。

始めに、資料①及び資料②の宇治山田商業高校前の停止線の移設についてお答えいたします。手元にお配りしました資料を御覧ください。

道路の交通規制について、管理している伊勢警察署に確認したところ、停止線が消えかかっているため補修を行います、との回答でございます。

しかし、御提案いただきました停止線の移設については、学校側から見ると校門から県道まで一直線で見えているように見え、優先道路のように思われると思いますが、実際は、資料の青色部分の市道黒瀬 17 号線が県道につながっており、赤色部分の校門からの道路は、市道黒瀬 17 号線につながる接続道路のため、移設すると市道の途中に一時停止規制をすることになるため、できないとの回答でした。

また、市道黒瀬 17 号線への徐行標識の設置についても、管理している伊勢警察署に併せて確認しましたが、新たな規制を行うことは難しいとの回答でございました。

なお、市道黒瀬 17 号線の坂道のカーブについては、トンネル付近に既存のカーブミラーが 1 基設置されていますが、学校側に近いほうにも、もう 1 基増設することで視認性が向上すると思われます。今後、設置の検討をしてまいります。

校門からの接続道路は私有地で、利用者にとって道路の区分が分かりづらくなっています。今後、皆さんが安全に利用できるような対策を、三重県の担当部局へ働きかけもしていきたいと考えています。

皆さんにおかれましては、市道黒瀬 17 号線へ合流する手前、私有地部分で、減速または停止して安全確認をしていただきますようお願いしたいと思います。急な坂道では自転車のスピードを緩めていただく、降車して自転車を押していただくなど、生徒会などでも、一度ご議論をいただき P R 等もお願いしたいというふうに思います。

次に、資料③及び資料④の宇治山田商業高校前の県道の車線を増やし、渋滞対策ができないかのご提案については、県道を管理している三重県の担当部局へ現状を伝え、働きかけてまいりますので、御理解をお願いします。

次に、資料⑤、資料⑥及び資料⑦の市内の渋滞箇所の信号について、待ち時間が分かる信号を取り付けては、との御提案については、写真でお示しをいただきました二見街道入口交差点のほかにも市内には通勤、通学時間帯に渋滞する箇所があります。待ち時間が分かる信号の設置は、渋滞対策に一定の効果が期待できると考えております。

信号機についても、管理している伊勢警察署に確認しましたところ、信号機の交換は老朽化したものから順次行っているとのことですが、多額の費用がかかり、他に交換が必要なものが多数あることから、早急な対応は難しいものの、渋滞対策の 1 つとして検討していくとの回答でございました。そのため、現時点での二見街道入口交差点の渋滞対策としては、地下道を有効利用していただくなどの御協力をお願いしたいと思います。

また、写真でも見られますが、横断歩道以外を停車車両の間を自転車で横断している方が数人おみえになります。車の死角からのバイク・自転車・人などと衝突の恐れがあります。皆さんにケガをしてもらいたくありませんし、加害者にもなってもらいたくありません。渋滞しているからといって、ルールを守らなくてもいいことにはなりませんから、

学校に戻られましたら、そちらのPRも是非お願いしたいと思います。

次に、資料⑧として、御意見をいただきました通学路の対策予定のガードレールや路面標示、ポール等の設置などについては、国・県・市・警察等の関係者間で連携し、順次計画的に実施してまいります。

最後に、資料⑨として御提案をいただきましたスマートフォンによる道路の損傷などに関して声を集めるシステムの導入については、現在パトロールで発見しきれていない情報を市民の皆様から得られる大変貴重なツールの1つと認識しており、今後、運用中である伊勢市公式LINE等への通報機能追加をするなど、検討を進めてまいります。

以上で宇治山田商業高等学校の皆さんからの質問への答弁とさせていただきます。どうもありがとうございました。

◎鯖戸朝陽議長（皇學館高等学校）

宇治山田商業高等学校。

○宇治山田商業高等学校

【15番 加藤沙織議員、16番 荒木優那議員、17番 上谷茉央議員】

御答弁ありがとうございました。提案どおりには実現できないことがあることや、提案の実現に向けていろいろと調整すべき事があることが分かり、とても勉強になりました。

私たちとしましては、横断歩道以外での横断を止めるよう、学校内で呼びかけを行っていきたいと思います。また、交通事故に遭わないために、自転車の速度に気をつけるよう併せて呼びかけを行います。

本日はお忙しい中、このような機会を設けていただき、ありがとうございました。

◎鯖戸朝陽議長（皇學館高等学校）

消毒のため、暫時休憩いたします。

〔休憩〕

◎鯖戸朝陽議長（皇學館高等学校）

休憩を解き、再開いたします。

次に、宇治山田高等学校、18番 池田真悟議員。

## 宇治山田高等学校

### 【女性の政治参画について】



○宇治山田高等学校

### 【18番 池田真悟議員】

本日はお忙しい中、このような貴重な時間を設けていただき、ありがとうございます。  
私は宇治山田高校3年の池田真悟です。本日はよろしくお願いたします。

今日、私たちが質問させていただきたい内容は、「女性の政治参画について」です。なぜ、このような質問をさせていただいたかという、私たちは1年生から2年生にかけて、校内の総合的な探究時間の中で、「女性の社会進出」というテーマで取り組みました。

世界の女性の社会進出と日本の女性の社会進出を比べ、日本はどれくらい遅れているか、また進んでいるかを調べてみたところ、日本の女性の政治的・社会的進出が他の国より低い傾向にあるということが分かりました。

その結果を受け、伊勢市議会や三重県議会の女性の議員数を調べたところ、市議会では2名、県議会では5名と少数でした。また、女性は男性よりも政治について興味・関心が低いというデータもあります。そこで、女性の政治参画を促し、女性議員を増やすため、政治に興味を持ってもらい、政治に参加できるように、どのような取組を行っているのかをお聞きしたく質問とさせていただきます。

近年、投票率が低い状況が続く、政治に対して、私もそうでしたが、無関心な人が多い状況で、少しでもそのような人を減らしていくために取り組んでいこうと考えています。みんなが政治に興味を持ち、行動できるようにするのが私たちの責務と感じたので、このような質問をさせていただきました。

◎鯖戸朝陽議長（皇學館高等学校）

総務政策委員会、吉井委員。





### ●吉井詩子総務政策委員会委員

宇治山田高等学校の皆さんからの御質問にお答えいたします。「女性の政治参画について」、御質問いただきありがとうございます。

私は平成 21 年に、もう 1 人の女性議員と共に初当選いたしました。以来、13 年間、御指摘のように、伊勢市議会では女性議員は 2 人という状態です。過去 3 回の選挙でも、女性の立候補者は私たち 2 人しかいないというのが現実です。伊勢市の人口の半分以上は女性ですから、女性の声を市政に反映させるために女性の議員が必要なことは言うまでもありません。

令和 2 年、内閣府男女共同参画局においてハラスメントを含む女性の政治参画への障壁について調査がされ、立候補を予定したが断念した男女、地方議員となった男女それぞれにアンケートが取られました。それによりますと立候補を断念した理由の中で、「自分の力量に自信がない」、「当選した場合、家庭生活との両立が難しい」と答えた女性の割合が、男性よりもかなり高くなっています。

また、女性の地方議員が議員活動をする上での課題として、「議員活動と家庭生活、家事、育児、介護等、これらとの両立が難しい」、「政治は男性が行うものという周囲の考え」という項目が挙げられました。

ハラスメント、嫌がらせに関しては、立候補をやめた人、地方議員に共通して、性別に基づく侮辱的な態度や発言、年齢、婚姻状況、出産や育児などのプライベートな事柄についての批判や中傷を受けた、という女性が多くいることが分かりました。

ハラスメントに対しての相談窓口や啓発といった取組や、女性人材育成の取組、子育てをしながら仕事ができる環境整備をもっと進めることなどが女性活躍を進めるためには必要です。

国においては、令和 3 年 6 月に、政治分野における男女共同参画の推進に関する法律の一部を改正する法律が施行され、男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指すこと等が定められました。しかしながら、各国の男女平等度を順位付けした 2022 年度の男女格差、ジェンダーギャップでは、日本は 146 か国中 116 位であり、さらに女性議員、閣僚の少なさから政治分野では 139 位となっています。

女性の政治分野への進出を推進するためには、家事や育児、介護は女性がするものといった固定的な性別役割分担意識、政治は男性がするものといった、まだまだ地域社会に残る偏見をなくし女性活躍の土壌をつくっていくのも大事です。市として総合的に女性支援、男女共同参画の施策を進めていくことが、女性の政治参画を促すことになるのではない

でしょうか。

そこで伊勢市においては、誰もが男女の性別に関わらず、一人一人が個人として能力を発揮し、共に活躍できる男女共同参画社会の実現を目指し、事業所や団体等の方針決定の場への女性参画の促進、女性の就労・能力開発のための支援、また家庭生活、地域活動及び学校教育においても様々な取組や意識普及のための啓発を実施しています。

投票率の低さについても、御指摘をいただきました。高校生の皆さんにおかれましては18歳になったら選挙に行ってください。そしてどの候補者が、どのようなことを発言し発信しているか興味を持ち、また皆さんが投票され、当選した議員が当選後、どのような活動をしているか関心を持ってください。

そして議員は遠い存在ではなく、身近な市民の代表です。ぜひ本日のように議員に対して問題提起をしていただければ幸いです。今日は、本当にどうもありがとうございました。

◎鯖戸朝陽議長（皇學館高等学校）

宇治山田高等学校。

○宇治山田高等学校

【18番 池田真悟議員】

お忙しい中、答弁いただきありがとうございました。実際に、女性議員の方から直接お話を聞くことができ、大変参考になりました。

やはり、根本的な要因は、周囲の考え方にあるということが分かりました。やはり女性が政治をしないというのが、今問題になっていると思います。正直、私たちの周りでもそのような考えの人が存在します。この考え方というのは、一朝一夕に取り払えるものではなく、また、考え方だけではなく、取組にもそのような意識格差があることが、現在の課題であることが分かりました。

この活動を通して、私たち自身も政治の現状について興味を持つよい機会となりました。そして、この経験を生かし、身の回りの人と選挙に行くことによって、少しでも政治に興味を持つ人が増えるようにすることが、私たちに今できることだと思いました。

本日はお忙しい中、このような貴重な時間を設けていただき、ありがとうございました。

◎鯖戸朝陽議長（皇學館高等学校）

消毒のため、暫時休憩いたします。

〔休憩〕

◎鯖戸朝陽議長（皇學館高等学校）

休憩を解き、再開いたします。

次に、伊勢高等学校、20番 西崎吏玖議員、21番 尹嘉寛議員。

## 伊勢高等学校

### 【学校統合について】



#### ○伊勢高等学校

##### 【20番 西崎吏玖議員、21番 尹嘉寛議員】

まず、私たち高校生に伊勢市の行政を知る貴重な機会を提供していただき、心から感謝しております。

私たちは学校統合、特に、伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画について、質問をさせていただきます。

平成29年度に伊勢市教育委員会が公表した修正版の伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画には、学校の小規模化による課題の解消が、これの目的であると明言してあります。確かに、統合後の学校で実施されたアンケートの中で、児童生徒は、人数が増え、学校がにぎやかになったと肯定的な意見が多数であって、おおむね予想どおりのよい方向に進んでいると思われまます。

しかし、保護者のアンケートからも、通学路の安全について不安な意見があったように、私たちは同計画の通学環境に関する整備について疑問に思いました。特に熱中症が懸念される夏や、大雨などの悪天候時の児童生徒の通学を私たちは不安に思っています。同計画は、遠距離通学となる児童生徒については、公共交通機関やスクールバス等の交通手段を確保する、徒歩通学では関係部局が連携しながら通学路の整備について努める、とありますが、より具体的な計画、例えばスクールバスの設置地点、各学校が統合される具体的な日時を伺いたいです。

私たちが考えた案は2つあって、1つ目は子供と大人では歩幅が違うので大人にとっては短い距離でも、子供にとっては長いことがあるので、スクールバスを利用できる距離を子供の立場で考えるべきだと考えました。スクールバスがなければ、例えば小1の子供が30度の高温で4キロメートル、もしくはそれ以上も歩く事態が多発します。

2つ目は共働きや車を持たないなどの事情で、悪天候の場合送迎ができない家庭を支援するためにスクールバスがあれば、より安全な登校ができるようになると考えました。以上です。

#### ◎鯖戸朝陽議長（皇學館高等学校）

教育民生委員会、宮崎副委員長。



●宮崎誠教育民生委員会副委員長

それでは、伊勢高等学校、西崎吏玖議員、尹嘉寛議員の御質問にお答えをいたします。

伊勢市においては、小学生の児童数が昭和56年の13,737人をピークに年々減少を続け、令和4年現在には6,014人に、中学生の生徒数も同様に、昭和61年の6,854人をピークとして、令和4年には3,106人となっています。

そのため、御紹介いただいたとおり、学校の小規模化による課題を解消し、より望ましい教育環境の構築と教育の質の充実を目的に、伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画を作成し、小中学校の適正規模化・適正配置に取り組んでいます。

同計画における、通学環境に関する整備についての御質問ですが、統合校の通学路は両校の学校関係者や保護者、地域の代表の方で構成される統合準備会で検討を行います。通学路を検討するに当たって改善が必要とされた箇所については、国、県、市の関係機関で構成される伊勢市通学路交通安全プログラムを通じて、歩道整備や防護柵設置など対策が必要な箇所に応じた安全対策を行うほか、保護者や地域、学校職員等による街頭指導なども行っています。

また、同計画では、遠距離通学者に対する通学支援として、学校の適正配置に伴い、新たに遠距離通学となる児童生徒については、体力や安全面を考慮して、小学生は学校から半径約2キロメートルを超える区域に住む児童、中学生は通学距離が6キロメートルを超える区域に住む生徒を対象として、市の負担により公共交通機関やスクールバス等の公共交通手段を確保するとしています。国の基準である小学校おおむね4キロメートル、中学校おおむね6キロメートルと比べると、特に精神面・体力面においても未熟な小学生に配慮したものになっています。

これまで、平成29年4月に、二見小学校と今一色小学校の統合校である二見浦小学校と、宮川中学校と沼木中学校の統合校である伊勢宮川中学校が、平成31年4月には、豊浜中学校と北浜中学校の統合校である桜浜中学校が、さらに令和3年4月には、神社小学校と大湊小学校の統合校であるみなと小学校が開校し、令和5年4月には、二見浦小学校と二見中学校の移転を予定しています。その後については児童数の推移を見ながら検討を進めているところです。

最後に、悪天候時の登下校についてですが、天候はある程度予測できるため、警報の発令や解除のタイミングなどに応じて、休校措置や登下校の時間をずらすなど、児童生徒が安全に登下校できるよう対応を行っています。

以上で伊勢高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。ありがとうございました。



◎鯖戸朝陽議長（皇學館高等学校）

伊勢高等学校。

○伊勢高等学校

【20番 西崎吏玖議員、21番 尹嘉寛議員】

議員の皆様には、大変お忙しい中、質問に返答していただき、ありがとうございました。私たちは学校統合、特に、伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画について考えてきて、スクールバスの利用と悪天候時の対応について質問させていただきましたが、市としての対応が行き届いていることが分かりました。

特にスクールバスについて、国の基準よりも小学生に配慮して対応してくれているなど感じました。悪天候時の対応が、天候に応じて対応してくれていて、とてもありがたいと思いました。

学校の適正規模化は税金を無駄なく利用するためでもあると思いますが、それと同時に、子供は社会の宝と言われるように、今後の日本の社会及び少子化の改善のためにも、このような配慮のある政策はありがたいものだと思います。これからも頑張ってくださいと思います。

◎鯖戸朝陽議長（皇學館高等学校）

以上をもちまして、市政に対する質問を終わります。

議長席を交代します。

◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長

それでは、広報広聴検討分科会の上村和生会長から感想を申し上げます。

### 上村会長の感想



○上村和生広報広聴検討分科会会長

本日は貴重な夏休みにも関わらず、高校生議会に御参加いただきまして、誠にありがとうございました。また、質問に、議長役に、長時間大変お疲れさまでした。私は、今回高校生議会を企画・検討させていただきました、広報広聴検討分科会で会長を務めさせていただいています上村と申します。

令和元年度に高校生議会を初めて開催をして、その後2年間、新型コロナウイルス感染



症の拡大によって、開催することができませんでした。今年、コロナ禍でも高校生議会が行える方法があるんじゃないかと、いろいろと議論を重ね、今回2回目を開催することができました。このことは本当に、各学校の校長先生をはじめ、学校関係者の皆様、また本日御参加いただきました高校生の皆様の御協力のたまものと、感謝しています。本当にありがとうございました。感想とのことですが、英心高等学校からは「被害想定・ハザードマップについて」、皇學館高等学校からは「地産地消推進に向けた新たな取り組みについて」、伊勢工業高等学校からは「伊勢市におけるものづくり産業の発展について」、伊勢学園高等学校からは「伊勢市の観光施策について」、伊勢まなび高等学校からは「登下校等に利用するバスの増便について」、宇治山田商業高等学校からは「通学路・生活道路の安全・保守や改善について」、宇治山田高等学校からは「女性の政治参画について」、伊勢高等学校からは「学校統合について」、様々な観点から、私たちでは気づかないような御意見もたくさんいただきました。私たち議員にとっても、大変貴重な機会になったのではないかな、というふうに思っております。ただいまいただきました御意見につきましては、市政に反映できるように努力してまいりたいというふうに思います。

皆さん、緊張していたかと思いますが、堂々と質問されている姿を見せていただきました。将来伊勢市議会議員に、この中からなっていっていただける方がいればですね、伊勢市の将来は安心だなと、安泰だなと思いつつ聞かせていただきました。本日の経験を活かして、様々な分野で今後活躍されることを祈念しまして、私からの感想とさせていただきます。皆さん、大変お疲れさまでした。また、ありがとうございました

◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長

上村会長、ありがとうございました。

消毒のため、暫時休憩いたします。

〔休憩〕

◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長

休憩を解き、再開いたします。

最後に、主催者を代表しまして北村勝副議長から御挨拶を申し上げます。

### 副議長あいさつ



○北村勝副議長

まずは高校生の皆さん、本日はお疲れさまでした。伊勢市議会で副議長を務めさせてさ  
せていただいている北村でございます。

今回の伊勢市高校生議会におきましては、高校生の皆さんが普段の生活の中で、伊勢市  
にどのような思いを持っていただいて、そしていろんな考え、意見を聞かさせていただく  
ことで、高校生ならではの目線で、気づきを直接聞かせていただく大変貴重な時間をいた  
だくことができました。本当にありがとうございました。

また、議長役3名、進行を務めていただく中で、初めての経験をしていただき、また皆  
さんにこの場で質問をいただくということでも、緊張されたことと思いますが、先ほども  
会長が言われましたが、堂々と立派に務められましたこと、大変素晴らしく思います。

私たち議員も、高校生の皆さんのように若い視点で、積極的にその考えを取り入れて、  
議会での議論をさらに充実させていきたいと思えます。

皆さんには、今回の経験を通じて市政や市議会への関心を高めていただいたと思えます  
ので、これからも伊勢のまちに関心を深く持っていただき、願わくば、議長、そして会長  
が言われましたが、皆さんの中から伊勢の暮らしをよくしたい、伊勢をよくしたいという  
ことで、伊勢市議会の議員になっていただけたらと思えます。

今後ともこのような意見交換の場を広く持たせていただきたいと考えております。引き  
続き、伊勢市議会の活動に御理解と御協力を賜りまして、深くお願い申し上げたいと思  
います。

最後になりますが、開催に当たりまして、ご尽力をいただきました各高等学校の皆様、  
そして本日引率に来ていただいた先生方、また、傍聴のほうにお越しいただいた皆様にも  
お礼を申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。本日は、どうもありがとう  
ございました。お疲れさまでした。

◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長

北村副議長、ありがとうございました。

以上で、本日の議事内容は終了いたしました。

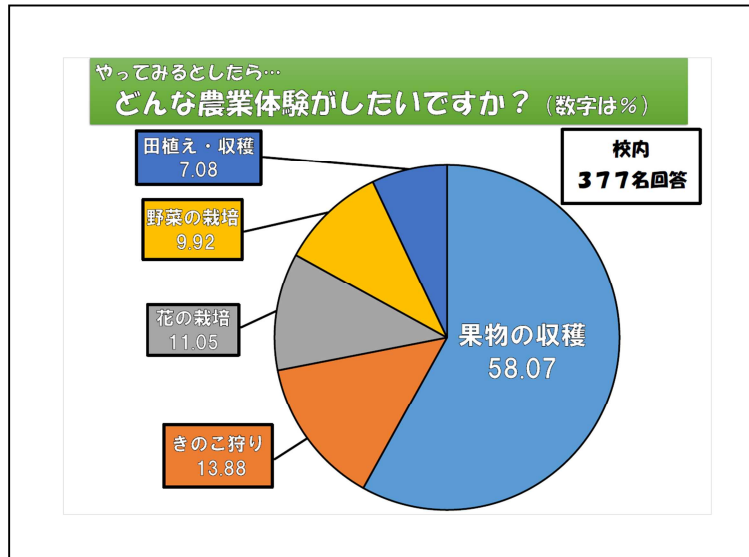
これをもちまして、伊勢市高校生議会を閉会いたします。

御参加いただきました皆様方、誠にありがとうございました。

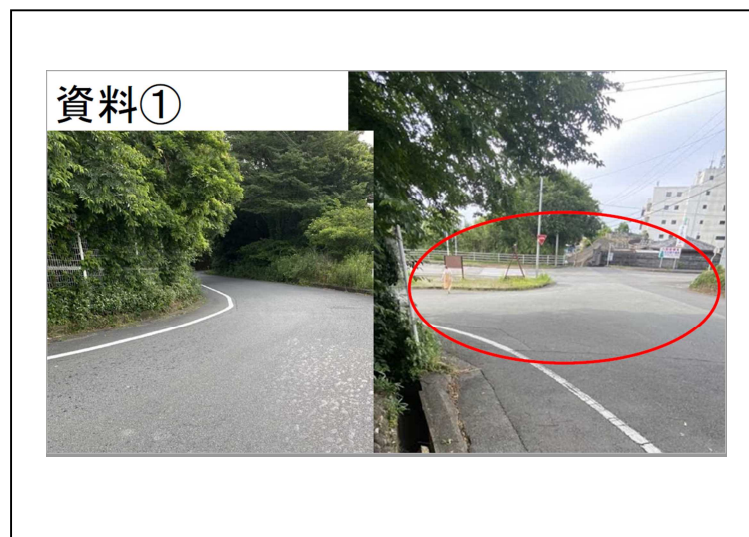
閉会 午後4時5分

■ 参考資料

皇學館高等学校



宇治山田商業高等学校



資料② - 2 改善案



資料③

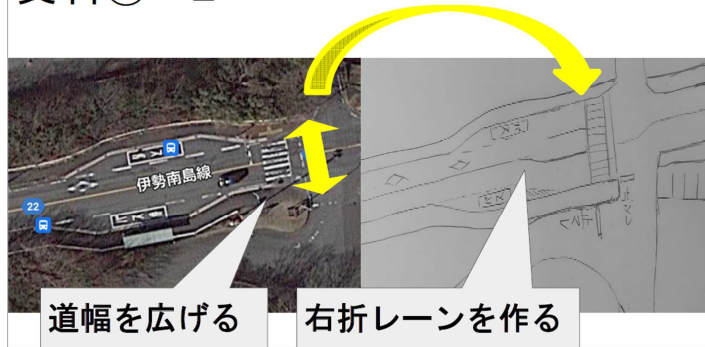


資料④ - 1

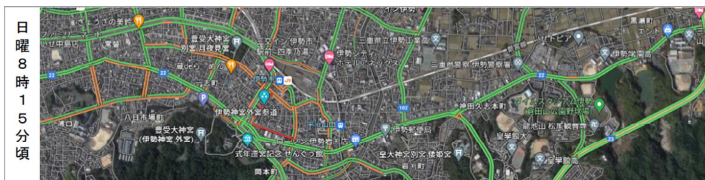
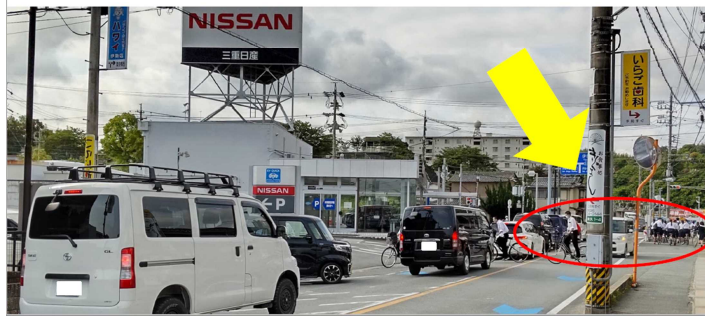




### 資料④ - 2

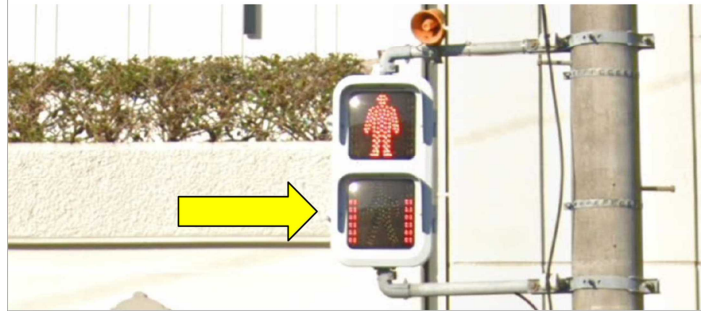


### 資料⑤





## 資料⑦



## 資料⑧

伊勢市教育委員会  
Ise City Board of Education

伊勢市通学路交通安全プログラム

伊勢市内通学路の対策箇所一覧表

伊勢市においては、「伊勢市通学路交通安全プログラム」に基づき、市教育委員会、学校、警察、道路管理署（国、県、市）により、通学路安全対策業務について取りまとめましたので、結果を公表します。

## 資料⑨

スマートフォンの  
スマート機能提供  
市民協働でまちづくり!

道路の損傷に備えること

道路の損傷（穴ぼこ、ひび割れ等）について、情報をお寄せください。スマートフォン等のGPS機能（位置情報）を有効にして写真を撮影していただくことで、正確な位置の把握につながりますので、ご協力をお願いします。皆さんの寄せられた貴重な情報に基づき、市が対応を行います。

【注意事項】

- ・ 換気扇等の写真は、GPS機能（位置情報）を有効にして撮影し、できるだけ鮮明な写真をお願いします。
- ・ 提供された情報が、国や県など市の管轄以外の内部の場合は、管理者へ依頼などを行う場合があります。
- ・ 大規模な工事を行う案件や緊急事項は受け付けできません。